

中間報告

プロジェクト名: 鯖街道クエスト



福井県上中町立三宅小学校

- 本校の取り組みのキーワードである『鯖街道』の概略説明
 - 若狭地方は古くから奈良や京の都との交流が盛んであった
 - 小浜湾で水揚げされた海産物をいくつものルートを使って都まで運んでいた
 - また、海産物のほかに、古くから若狭と京都とは文化の交流があったといわれている
 - 今でも、上中町には祇園祭や六歳念仏などが残り、方言もきわめて京都弁に近い
 - 海産物が運ばれたルートのことを『鯖街道』と呼ぶ
 - この鯖街道沿線上の小学校を結んで、学校間の交流ネットワークを作ろうというのが今回の取り組み
 - このネットワークの名前は『鯖街道ふれあいネットワーク』

ネットワーク設立の目的

- オンラインの学校間交流とオフラインの学校間交流をバランスよく行う中で、学習情報の交換をしたり、児童相互の親睦を深めたりする。
- 学校間交流を通して、自分たちが住んでいる地域の歴史や文化に対する理解をさらに深める。

関係者の願い：視聴覚メディア利用による“鯖街道”ミニ復興

- ネットワーク設立の目的は、大きく分けて提示した2つになる。
- この中で、我々が重視してきたことは、オフラインの交流
- オンラインの交流とオフラインの交流を組み合わせることによって、単なる学習情報の交換にとどまらず、友達意識の芽生えや相手を思いやる気持ちがでてくるなど、“心の交流”が実現できたように思う
- 我々関係者の願いとして・・・残念ながら、現在の鯖街道は周辺地域の過疎化の問題があり、昔のようにぎわいはみられない
- そこで、今回の取り組みを通して、若狭から京都に至る鯖街道のミニ復興、それもインターネットなどの最新の視聴覚メディアを用いて、古来の人々が経験した文化の交流ができたという願いがあった。

昨年度までの活動の実際

1. メールングリストを利用した情報交換
2. 総合的な学習の時間における情報交換・共同学習
3. 直接交流



- 昨年度までの活動の実際として大きく次の3つがあった。
- 進めていく中でいくつかの課題にぶつかった

鯖街道ネットの課題

課題

- 学校間の取り組みに対する意識の差
- 総合的な学習に対する取り組み方の違い(いかに共通項を見つけるか)



新たな取り組みの必要性に迫られる

- 一番大きな課題は、学校間の温度差
- もちろんそれぞれの学校が独自の取り組みをしているため、こうした温度差が生じるのは仕方のないことでもある
- 今後は、その中で何とか共通項を見つけて、新たな取り組みを展開していくことが、本ネットワーク存続の大きな鍵となると考えた

新しい取り組み

- インターネット交流学習『鯖街道クエスト』
 - » 先に行われた『アイランドクエストin沖縄&屋久島』を参考にしたミニクエストを実施
 - » URL : <http://www.hokuriku.ne.jp/m-tsuda/>



- 新しい取り組みとして、インターネットを利用した交流学習『鯖街道クエスト』を始めた
- これは、5月末から全国規模で行われた『アイランドクエストin沖縄&屋久島』をモデルにした取り組みである
- 同時に、せっかく鯖街道に関連のある学校が集まってできたネットワークであるため、原点に立ち戻り、鯖街道に関する学習を中心に据えようと考えた
- 専用のHpを作っているため、詳細を説明する前に実際に見てほしい

『鯖街道クエスト』の試み



•手続きの説明

- 6月末に始めたばかりで、すぐに夏休みに入ったため、まだ情報提供はない
- 2学期から本格的に活動を進めていきたい

今後の活動プラン

- インターネット交流学習『鯖街道クエスト』を中心に据えた活動の展開
- 直接交流会の実施

•最後に、今後の活動プランについてふれておく

•今後は、この『鯖街道クエスト』に焦点を当てた活動を展開していきたいと考えている

•これも成功するか否かの分かれ目は、各校からの情報提供の頻度であろう

•鯖街道のことを追究しているグループ・学級はネット参加校の半数近くある

•その他の学校は、時々見てもらい、接点があれば投稿するように呼びかけている

•もう一つは、我々が活動当初から大切にしてきた『オフライン交流』である

•若狭地方に伝わる「京は遠ても十八里」という言葉にあるように、日帰りで直接交流ができる位置関係であるというアドバンテージを生かし、オンライン交流をより豊かにするためにもオフライン交流を、これからも大切にしていきたい